専大スポーツ
No. 359
大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からアクセス）でご確認ください
専大スポーツ編集部 web（http://sensupo.web.fc2.com/）でも大会結果を配信しています

▶ 優勝の瞬間。喜びを爆発させる田添（左）と前田さん

卓球・全日本選手権
混合ダブルス

田添が優勝

同じペア 3年ぶり

天皇杯・皇后杯全日本卓球選手権（一般・ジュニアの部）が1月11日から17日まで東京体育館で行われ、田添健汰（商2・希望が丘高）・前田美優さん（日本生命）ペアが混合ダブルスで優勝を果たした。昨年3位の同ペアは高校時代にも優勝しており、3年ぶり2度目の栄冠を勝ち取った。

準決勝では鈴木李茄（商3・青森山田高）・平野友樹さん（協和発酵キリン）ペアと対戦。「同じ専大の選手と当たるのは苦しい部分もあった」と試合を振り返ったが、この試合を3―1で制し決勝に駒を進めた。

迎えた決勝では9―11で第1セットを先取されるも、その後は2人息のあったプレーを見せる。前の試合の勢いを取り戻し、11―4、11―8、11―3で3セットを連取し、試合を決めた。優勝が決まった瞬間、2人は力強くガッツポーズ、ホッとした表情を見せ、ハイタッチを交わした。

表彰式後の優勝インタビューで田添は「もう1回優勝したいと思っていたのでうれしい。勝ててよかった」と語った。

鈴木ペア3位

鈴木・平野さんペアは3位入賞。また、男子ダブルスでは東勇渡（経営2・帝京高）・村井桂さん（法大）ペアがベスト8入りした。東は「ここまで勝ち上がれたことに正直なところ驚いている。実力が上の人たちに勝てたことで大きな自信となった」と満足そうな表情を見せた。

（飛田翼・文1＝写真も）

※田添の「人-ZoomUP」を11面に掲載。

スケート・日本学生氷上競技選手権
スピード部門 大学対抗

男子総合3位

日本学生氷上競技選手権のスピード部門が1月6日から9日まで、栃木県の日光霧降スケートセンターで行われた。スピードスケート部の各選手が健闘を見せ、大学対抗で男子総合3位となった。

小坂龍（商4・白樺学園高）は「ここで決める」と語っていた1500㍍で1分55秒33を記録し3位。「前嶋孝監督から調整の仕方を教わっていた。監督のおかげです」と感謝の気持ちを語った。

小川翔也（文3・池田高）は、5000㍍は1位と0・1秒差、1000㍍も同1秒差で、惜しくも両種目とも2位となった。「うまく調整し、万全の状態で臨んだ。やるべきことはやってきただけに結果を出したかった。来シーズンは、さらに上位にいけるように1年でしっかりと作り直していく」と前を向いた。

（斉藤葵・商2＝写真も）

※主な入賞者は11面の「記録コーナー」に掲載。

▶ 1500㍍で健闘した小坂

日本学生野球協会
表彰選手に濱田

1月12日、2015年度の日本学生野球協会表彰選手が発表され、東都大学野球連盟からは濱田竜之祐（商4・鹿児島実高）が選ばれた。

この表彰は、高校生は47都道府県から各1人、大学生は全国26の学生連盟から各1人が選出される。

濱田は〝不動の4番〟としてチームを引っ張り、春季リーグでチームを26年ぶりの1部優勝に導いた立役者の一人。春季はチームトップの打率3割5分7厘のハイアベレージを残し、三塁手としてベストナインにも選出された。

今回の受賞に対し、「〝おっ〟という感じ。自分が受賞するとは思っていなかった」と語った。

4月からは社会人野球の日本新薬に進む。濱田は「まずしっかりとポジションを勝ち取って、都市対抗に出場したい。都市対抗の舞台で（同じクリーンアップで肩を並べていた）渡辺和哉（経営4・文星芸大附高）が入社するJR東日本と対戦したい」と目標を力強く話した。

戦うステージは変わるが、自分の能力をさらに発揮し、専大出身選手として輝いてほしい。

（飯塚＝写真も）

▲ 春季リーグ・國學大１回戦でホームランを放った濱田

▶ 石川（右）と栗山（左）がワンツーフィニッシュ

スキー・全日本学生チャンピオン大会
石川が優勝、栗山2位
1・2㌔スプリントクラシカル

クロスカントリーの全日本学生チャンピオンスキー大会（12月20日～23日、北海道音威子府村チセネシリクロスカントリーコース）の男子1・2㌔スプリントクラシカルで石川謙太郎（経営4・旭川大学高）が優勝。栗山大貴（経営4・白馬高）も2位に入り、専大勢が表彰台をにぎわせた。

石川は「今まで学生の試合では予選を全て1位通過してきたが、決勝では必ず何かしらのトラブルに巻き込まれ、一度も優勝することができなかった。今回は何のトラブルもなく決勝を走り、優勝することができてうれしい」と喜びを語った。

「目標は国内で活躍することではないので、次に向け良いステップを踏めたという気持ち。現在はノルウェーのプロチーム『チームシンフェル』に所属し、世界で戦える選手になるために活動をしている。卒業後は完全に拠点をノルウェーに移し、『オリンピックでメダルを取る』ことを目標に頑張りたい」と今後を見据えた。

今大会では馬場直人（経営1・中野立志館高）が15㌔フリーで3位、10㌔クラシカルで4位に入賞した。2月のノルディックジュニア世界選手権に日本代表として出場する馬場の活躍に石川も「直人は1年次生ながら有望な選手。学生の試合での活躍をステップにして世界で戦える選手になってほしい」と期待を寄せた。

（飯塚恒成・文2）

馬場が5位
全日本クロカン 音威子府大会

全日本クロスカントリー音威子府大会（12月26、27日、北海道音威子府村）の男子10㌔フリーで馬場が5位。全日本クロスカントリーレース（1月7日、白旗山クロスカントリーコース）の男子1・6㌔スプリントで石川が5位となるなど、各大会で上位に入賞している。

ジャンプ・コンバインドで3人、アルペンで12人の計15人が各県代表として出場する国民体育大会冬季大会（2月20～23日、岩手県）でもスキー部員の健闘を期待したい。